

三浦遺跡

一般県道松任鶴来線交通安全施設等整備
工事に係る埋蔵文化財緊急発掘調査報告書

1991

石川県立埋蔵文化財センター

三浦遺跡

一般県道松任鶴来線交通安全施設等整備
工事に係る埋蔵文化財緊急発掘調査報告書

石川県立埋蔵文化財センター

例　　言

1. 本書は、一般県道松任鶴来線の交通安全施設等整備工事に係わる埋蔵文化財（三浦遺跡）の発掘調査報告書である。調査地は、石川県松任市三浦町地内である。
2. 調査は、石川県土木部道路整備課（担当金沢土木事務所）の依頼により、石川県立埋蔵文化財センターが実施した。調査費については、道路整備課が負担した。
昭和63年度調査　　担当 平田天秋（石川県立埋蔵文化財センター調査第一課長）
平成2年度調査　　担当 三浦純夫（石川県立埋蔵文化財センター主査）
3. 発掘調査にあたっては、金沢土木事務所、県立松任農業高校、白山建設㈱の協力を得た。
4. 出土品整理は、既石川県埋蔵文化財保存協会に委託して実施した。
5. 本書の執筆は、第1章を泉谷ゆかり（石川県立埋蔵文化財センター主事）、第2・3・4章を平田、三浦が行い、平田が編集した。
6. 本書で用いる方位はすべて真北、水平基準は海拔高（m）である。
7. 出土品、記録資料は石川県立埋蔵文化財センターが保管している。

目 次

本文 目 次

第1章 遺跡の位置と環境	1	第2節 平成2年度調査	7
第1節 位置と地理的環境	1	第3章 遺構と遺物	8
第2節 歴史的環境	1	第1節 昭和63年度調査	8
第2章 調査の経緯と経過	5	第2節 平成2年度調査	24
第1節 昭和63年度調査	5	第4章 おわりに	24

挿 図 目 次

第1図 松任市の位置	1	第9図 昭和63年度調査区出土遺物	13
第2図 三浦遺跡と周辺の遺跡(1/25,000)	2	第10図 昭和63年度調査区出土遺物	15
第3図 三浦遺跡周辺の地形(1/20,000)	4	第11図 昭和63年度調査区出土遺物	17
第4図 三浦遺跡の過年度の調査位置	6	第12図 昭和63年度調査区出土遺物	19
第5図 調査区区割図(1/1,500)	7	第13図 昭和63年度調査区出土遺物	21
第6図 昭和63年度調査遺構平面図	9	第14図 昭和63年度調査区出土遺物	23
第7図 昭和63年度調査遺構出土遺物	10	第15図 平成2年度調査区全体図・土層図	25
第8図 昭和63年度調査区出土遺物	11	第16図 平成2年度調査区出土遺物	24

図 版 目 次

写真図版 1	遺跡周辺の航空写真(1/10,000) 0) (昭和40年10月14日撮影)	構検出状況(P19、P21、P22 東より) 遺構検出状況(P23~ P25南より) W区断面(東より) 作業風景(北より) 冠水状況 (北より)
写真図版 2	昭和63年度 調査前全景(南よ り) 調査区掛七中(南より)	平成2年度 第1区~第4区 (南から) 第6区~第8区(北 から)
写真図版 3	昭和63年度 P1~P3(南よ り) P4~P9(北より)	昭和63年度 遺構出土の遺物
写真図版 4	昭和63年度 P10~P15(北よ り) P18~P22、1号溝など (南より)	調査区出土の遺物
写真図版 5	昭和63年度 1号溝、P23~P 25など(北より) 4号溝、P3 1~P36など(北より)	昭和63年度 調査区出土の遺物 調査区出土の遺物
写真図版 6	昭和63年度 1号溝(西より) 3号溝(東より) 4号溝、P3 3~P36(東より)、P4、P5 (東より)、P5~P9(東より) P6~P9(東より) P10(東 より) P12~P15(東より)	調査区出土の遺物
写真図版 7	昭和63年度 P23~P25(東よ り) P28~P30(南より) P31, P32、4号溝など(南より) 遺	昭和63年度 調査区出土の遺物 各区出土の上鍵、轍の羽口、 鉛錆、鉄製品など 平成2年度 調査区遠景(東から)

第1章 遺跡の位置と環境

第1節 位置と地理的環境

三浦遺跡は石川県松任市三浦町に所在する。松任市は北は金沢市に、東は石川郡野々市町・鶴来町に、南は石川郡美川町・能美郡川北町にそれぞれ接し、西は日本海に臨む。市域は笠峰白山に水源を発する手取川によって形成された手取川扇状地の扇央部を占め、県下でも有数の大穀倉地帯を形成する。三浦町はその扇央東部に位置し、世帯数は51、人口は約227人を数える。明治34年に整備された七ヶ用水の一つ中村用水は、集落西方で東川と柳橋川に分流し、本遺跡が所在する松任農業高等学校敷地の中央を北流している。このため水の便は良く、周辺部は美しい水田地帯として開発されている。しかしこの七ヶ用水が整備される以前は、水源である手取川が氾濫をおこすたびに付近一帯に被害を与えていたことが、発掘により出土した礫群からもうかがうことができる。このようなことから、手取川扇状地の開発の歴史は、開発と荒廃をくり返してきたといえる。

また、古来「手取川はその水路を七たび変えた」と伝えられているように、松任市徳光町付近を流动していた本流が南遷し、副流を分派していった結果七ヶ用水を生み出したということが、藤則雄氏によって明らかにされている。そのため鶴来駅と徳光町を結ぶ扇央線より南西部にかけては開発がおくれ、遺跡も北東部に多く発見されている。土壤をみると、北東部では礫の混入が稀で、灰色～灰褐色土壌や黒色～暗黄褐色の土壌が分布するのに対して、南西部の海拔10m以上のところで礫が多く、礫層が厚く堆積しているのがうかがえる。

このように手取川扇状地では、手取川の氾濫をおさえ、なおかつ手取川の水を利用するといった大規模な灌漑技術を導入しなければ、開発が困難であったといえる。

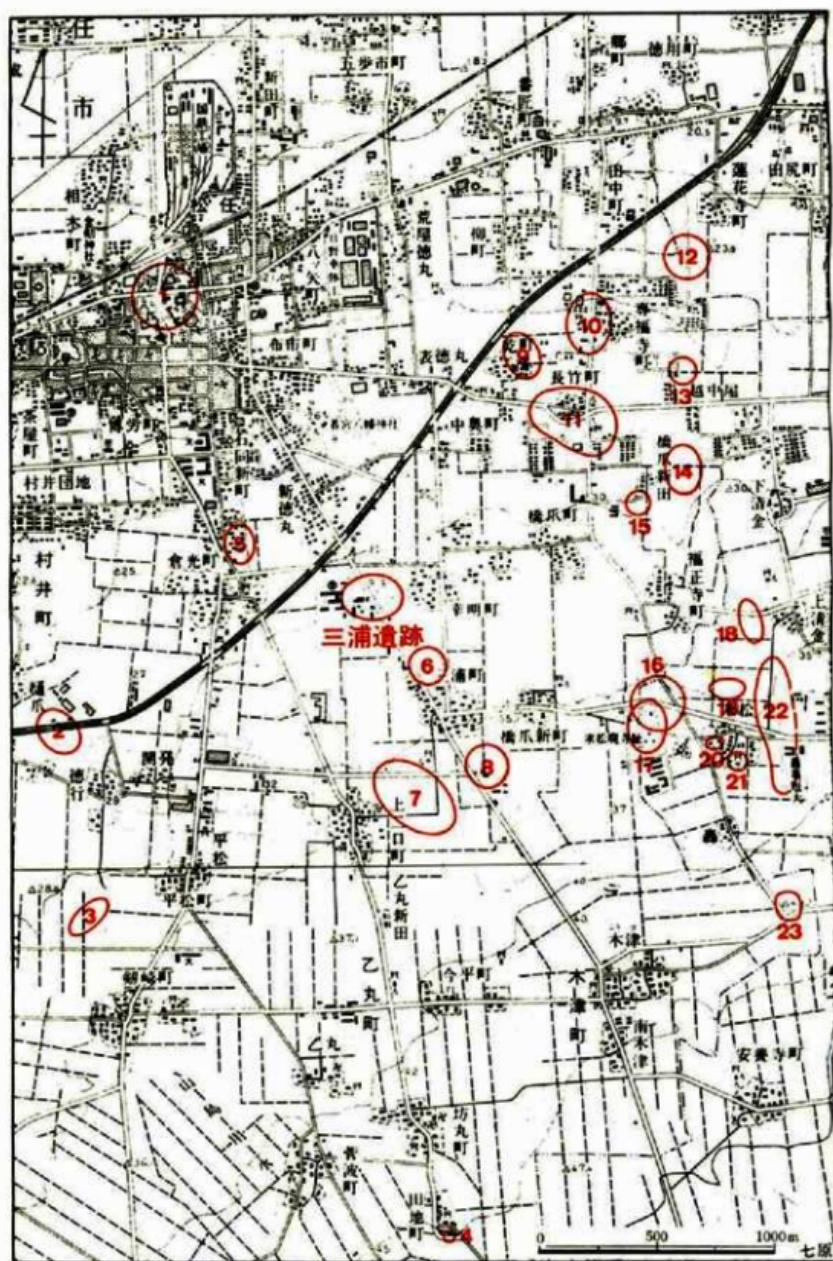
第2節 歴史的環境

手取川扇状地の開発は、扇状地という地理的条件のもと多難な歴史をたどってきた。その理由には地下水が得にくいということと、手取川の氾濫に絶えず脅かされてきたことがあげられる。そうしたことから、自然灌漑にたよっていたと思われる縄文時代から弥生時代にかけての遺跡が、扇端北東部の海拔10m以下の低地に集中しているのも、当然であるといえる。

しかし扇央部でも、縄文晩期に入るとようやく七ヶ用水の一つ郷用水ぞいに、遺跡が多くみられるようになる。乾遺跡で、配石墓が発見されたのをはじめ、長竹遺跡や橋爪遺跡、高田遺跡で打製石斧が出土している。



第1図 松任市の位置 1/300,000



第2図 三浦遺跡と周辺の遺跡 1/25,000

第1表 周辺遺跡地名表

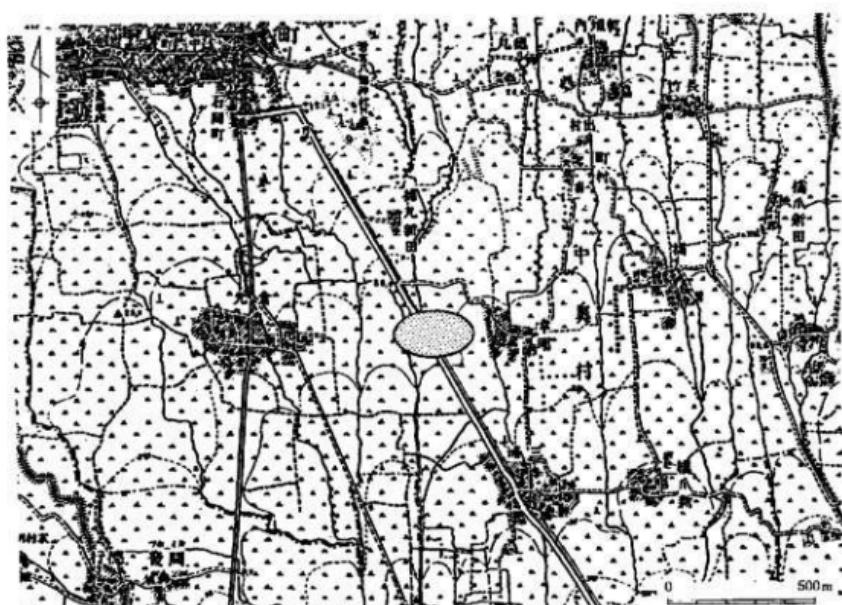
番号	遺跡名	所在地	現況	種別	時代	備考
1	松任城跡	松任市古城町	公 国 田 包含地	城跡 中世	室町・安土桃山	現在のおかりや公園
2	村井遺跡	村井町	水 田	墓地跡	中世	中世陶器出土
3	剣崎遺跡	剣崎町	水田・道路	墓地跡	平安・中世	五輪塔、宝鏡印塔出土
4	田地古墳	田地町	畠地・道路	古 墓	古 墓	横穴式石室、須恵器、銀環、鉄製品出土
5	倉光ノキヤマ遺跡	倉光町	水 田	聚落跡	鐵	倉
6	三種常在光寺跡	三種町	"	寺院跡	"	耕地整理で土器が出土したとの伝えあり
7	上二口遺跡	上二口町	"	聚落跡	弥生～平安	堅穴住居跡、掘立柱建物跡検出
8	三浦高麗野遺跡	三浦町	宅 地	墓地跡	鐵	五輪塔、宝鏡印塔出土
9	乾通跡	乾町	水 田	聚落跡	鐵文～近世	堅穴住居跡検出
10	専福寺跡	専福寺町	社 地	寺院跡	中世	五輪塔、仏具、花器出土
11	長竹遺跡	長竹町	水 田	包含地	鐵文～中世	鐵文土器、弥生土器、土師器、五輪塔、宝鏡印塔出土
12	田中ノダ遺跡	田中町	"	古 墓	前 期	土師器出土
13	高田遺跡	専福寺町	"	鐵	平安	打製石斧・土師片出土
14	橋爪遺跡	橋爪町	"	鐵	文	打製石斧出土
15	橋爪松の木遺跡	"	"	鐵	中世	五輪塔、宝鏡印塔出土
16	末松ダイカン遺跡	野々市町末松	果 樹	聚落跡	古 墓～中世	堅穴住居跡検出
17	末松庵寺跡	"	公 園	寺院跡	京 良	法起寺式の伽藍配置をもつ白鳳守院、金堂、塔、施設の一部を検出
18	清金アガトク遺跡	野々市町上清金	水 田	聚落跡	奈良～中世	堅穴住居跡、掘立柱建物跡検出
19	末松B遺跡	字末松	"	包含地	奈	高杯出土
20	末松C遺跡	"	宅 地	"	奈	瓦片、土師器、須恵器出土
21	末松古墳	"	社 地	古 墓	奈	史跡不明
22	末松遺跡	校地・木津	水田・道路	聚落跡	古 墓～平安	堅穴住居跡、掘立柱建物跡検出
23	木津遺跡	松任市木津町	水田・道路	"	弥生～中世	堅穴住居跡、掘立柱建物跡検出

弥生時代に入ると、中期前葉では上林、末松Bで、後期では乾、上二口、木津の各遺跡で弥生式土器が発見されている。

古墳時代中期には、木津遺跡で堅穴住居跡が検出されており、扇状部で初めての定住化傾向がみられるが、縦起性をもたず、扇状地での開発が停滞したことをうかがわせている。しかし後期には、横穴式石室をもつ田地古墳や、実態不明ながらも末松古墳が築造されており、7世紀後半以降の扇状地開発につながる有力首長層の存在をうかがわせている。

7世紀後半に入ると、末松ダイカン遺跡をはじめ末松、木津、上二口の各遺跡で堅穴住居を主体とする集落が形成され、8世紀初頭には末松庵寺が建立されるなど、扇状地開発に一大高潮が訪れたことを示している。末松庵寺からは、発掘調査の結果、金堂や塔の跡が検出され、法起寺式の伽藍配置をもつ、北加賀で唯一の白鳳寺院であることが明らかになった。このことから末松を中心とする地区が、7世紀後半から8世紀初頭にかけて、開発の重要な拠点であったことが推定される。

11世紀後半から12世紀にかけては、扇状地開発におけるもう一つの重要な画期とみられている。三浦遺跡では1970年の発掘調査によって、11世紀後半と推定される掘立柱建物跡が検出された。また多量の土師器、少量の須恵器とともに青磁、白磁、綠釉陶器も発見されており、郷、保司級の在地領主の居宅である可能性が指摘されている。また近接する上二口遺跡や末松庵寺跡からも平安後期の掘立柱建物跡が検出されており、「和名抄」に記載される「押御郷」を本拠地とした在地領主林氏との関連が予想される。また、林氏の庶流の一人といわれる倉光成澄の名が『平家物語』と『源平盛衰記』に登場し、本遺跡に隣接する倉光保を本拠地としていることも注目される。



第3図 三浦遺跡周辺の地形 1/20,000 (明治42年大日本帝国陸地測量部作図)

中世に入って手取川が現在の大慶寺用水より南に流路をとるようになってからは、扇央中央部にも遺跡が多くみられるようになる。剣崎遺跡や三浦高麗窯遺跡、三浦常在光寺遺跡からは五輪塔や宝鏡印塔が出土し、倉光ゴキヤマ遺跡からは五輪塔、宝鏡印塔をはじめ、藏骨器とみられる鎌倉時代後期の珠洲陶器壺、瀬戸陶器の三耳壺などが出土している。この遺跡は、上述した倉光氏の墓地跡とみられており、遺跡からも扇央部における代表的な領主であったことをうかがわせている。

(泉 谷)

注

- (1) 藤原道「地質上からみた手取川の変遷」「川北村史」川北村史編さん委員会 1970
- (2) 1990年に石川県埋蔵文化財保存協会が発掘調査を実施
- (3) 中島俊一「松任市長竹遺跡発掘調査報告」石川県教育委員会 1977
- (4) 1990年に石川県埋蔵文化財保存協会が発掘調査を実施
- (5) 鶴岡泰平「安養寺遺跡群(上林地区)調査報告」石川県教育委員会 1975
- (6) 中島俊一「松任市上二口遺跡」石川県立埋蔵文化財センター 1982
- (7) 1984年に石川県立埋蔵文化財センターが発掘調査を実施
- (8) 金山誠光・田嶋明人・高橋謙・小鶴芳孝「松任市田地古墳墓急調査報告」「石川考古学研究会誌」第14号 石川考古学研究会 1971
- (9) 北野博司「木松遺跡」石川県立埋蔵文化財センター 1989
- (10) 河原耕之・吉岡崇範「史跡木松寺」野々市町教育委員会 1967
- (11) 石川考古学研究会編『加賀三浦遺跡の研究』石川県教育委員会・松任町教育委員会 1967
- (12) 浅香年木「古代地域史の研究」法政大学出版部 1978
- (13) 佐川文庫に同じ
- (14) 藏国晴「地理・歴史上からみた手取川の変遷」「川北村史」川北村史編さん委員会 1970
- (15) 三浦純夫編「劍崎遺跡」石川県立埋蔵文化財センター 1988
- (16) 佐川文庫に同じ

参考文献

- 手取川七ヶ用水史編さん委員会「手取川七ヶ用水史」上巻 手取川七ヶ用水土地改良区 1982
吉岡崇範「平野・扇状地の遺跡」「金沢周辺の第四系と遺跡」北陸第四紀研究グループ 1975

第2章 調査の経緯と経過

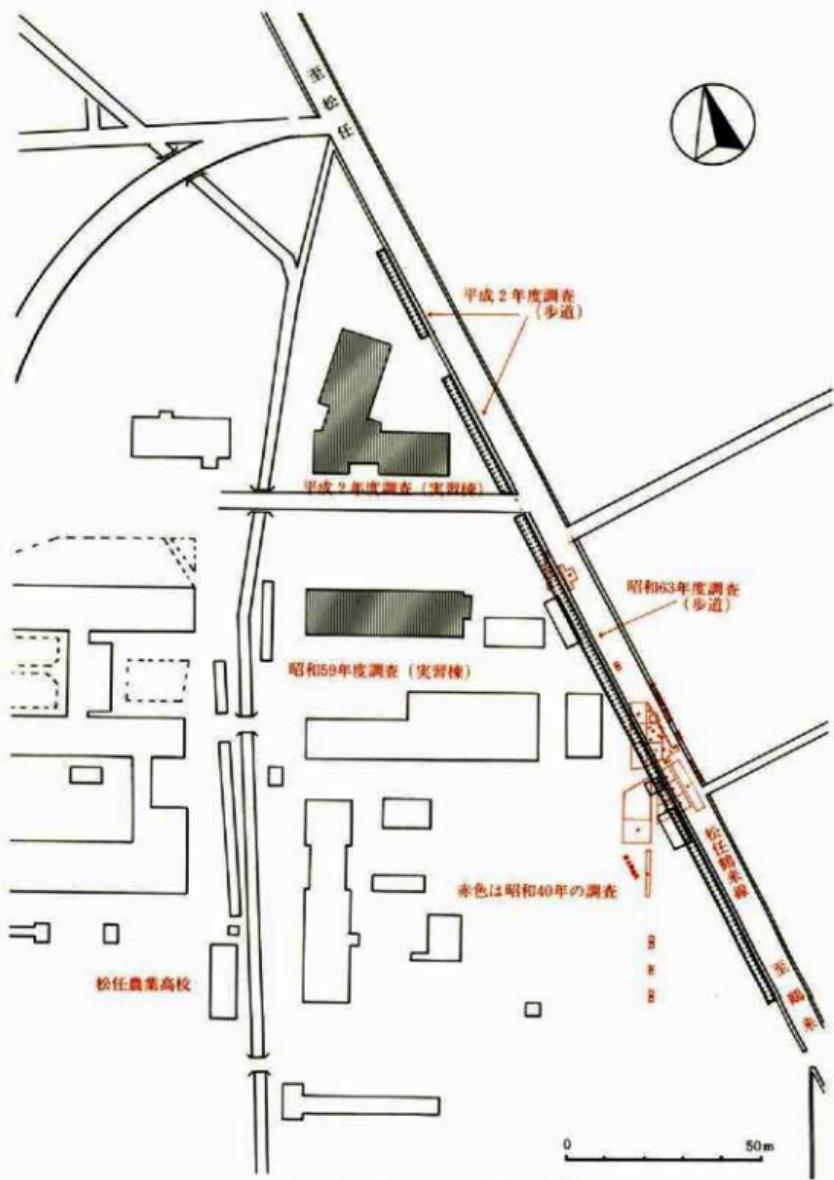
第1節 昭和63年度調査

一般県道松任鶴来線の交通安全施設等整備工事に係わる埋蔵文化財の取り扱いに関しては、昭和62年11月に最初の試掘分布調査を実施している。この際の調査対象域は、三浦町地先で、周知の三浦遺跡に南接する地点ではあったが、埋蔵文化財は所在しなかった。翌昭和63年4月には、さらに北側（県立松任農業高校に東接する部分）の分布調査依頼が、石川県金沢土木事務所より提出され、センターでは7月12日に試掘調査を実施した。その結果、調査対象区全域にわたって、35～60cmの盛土上に、松任農業高校造成（昭和37～8年頃か）以前の水田が所在し、その下層において良好なる遺物包含層が認められた。その後、数回の協議がなされ、本年度の発掘調査事業として対応することとし、9月26日より開始した。調査区域には、中村用水の支線用水が平行して貫流していたり、松任農業高校の器材格納庫があったり、樹木の植栽があったりで、それらの構築物を撤去しながらの調査で現地立会い調査の色濃いものとなった。

今回の交通安全施設建設（歩道の新設）に係わる発掘調査以外にも、数度に亘って発掘調査が実施されている。昭和39年9月9日に、松任農業高校の敷地整備工事中に、遺物の出土が見られ、同校教諭金山顯光氏によって発見された。その後、松任農業高校の東側を南北走する県道松任鶴来線の拡幅工事が実施されるに及んで、石川考古学研究会は、石川県、松任町教育委員会と協議の結果、石川県で最初の行政機関が調査主体（石川県、松任町教育委員会）となる調査を実施している。それらの成果は、「加賀三浦遺跡の研究」（昭和42、3発行）に詳しいが、いろんな意味で、石川県にとって、記念すべき発掘調査となった。本年度の調査区とは、第1調査区、第2調査区において、重複している。掘立柱建物、竈跡、溝跡などが検出され、上層、中層、下層の三層に遺物が採集され、三浦上層土器、三浦中層土器と編年され、現在でも古代土器編年の基礎をなしている。また、昭和59年8月～10月には、松任農業高校の実習棟建設に先立って、400m²の発掘調査を、当センターが実施している。平安時代の掘立柱建物1棟と溝跡が検出された。調査地域は、本遺跡の西端近くであるとの所見を得ている。また、昭和63年9～10月、平成2年5月には、今回報告の交通安全施設工事に伴う発掘調査を実施している。また、平成2年8～9月には、実習棟の建設に伴って、600m²の発掘調査を当センターが実施している。調査地域は、本遺跡の北西端にあたっており、溝跡、ピットをわずかに検出したのみであった。過去二回の松任農業高校実習棟の建設に係わる調査報告書は、数年後に刊行されることを期待し、今回は、県土木部の交通安全施設工事に伴う、二カ年の調査について報告する。以下に、調査日誌を抄録しておく。

昭和63年度

9月26日（月） 晴 工事基点南側から、用水路及び盛土の掛け土を開始する（白山建設）。基点周辺の約30m位は、危険物捨て場、焼却炉などのため、下層まで擾乱を受けて、遺存していない。それより北側では、遺物包含層が遺存している。器材置き場として、松任農業高校の造園実習室を借りる。



第4図 三浦遺跡の過年度の調査位置

9月28日(火) 曇 本日より作業員による包含層の排土を始める。B、C区より縁軸片、輪の羽口片出土。

9月30日(金) 曙 F~I区包含層排土。D~I区遺構検出作業。N、I、J区周辺では包含層がなくなる。(後になって解るのであるが、このあたりが、昭和40年調査に重複する部分か)。

O区ぐらいまで、そのような状態が続く。深い遺構については、底部のみが遺存しているようである。

10月4日(火) 晴 P、Q区包含層排土。細片遺物(土器器が特に多い)が非常に多い。P区縁軸3、灰軸片出土。A~H区平面実測始める。

10月6日(木) 雨 調査区内周辺よりの雨水の流入のため冠水。終日水抜き作業。

10月12日(火) 曙一時雨 O~U区遺構検出。寒冷前線の通過で寒くなる。U区方向に、地山は緩く傾斜し始める。

10月14日(金) 雨のち曇 午前中排水作業。X区に焼土の拡りを検出。ほぼ東西方向に幅約1m弱の溝状になる。遺構検出終了区の平面図作製。ほぼ終了に近いが、設計変更のため、V~Z区について再度・拡幅部分の調査が生じた。

11月8日(火) 晴 V~Z区の包含層排土。地山が北に向かって傾斜しているため、かなり深くなる。X区の焼土の西側への拡がりを確認、土広、ピットが数基。平面図追加作図、写真撮影、器材撤収などを済して、11月10日(木)をもって一応終了する。

発掘調査協力者名簿 白山建設㈱ 林亮、藤田弘、中川敏江、西村和枝(以上三浦町)、江村静枝(木津町)、谷内茂代(光ヶ丘)、天川千代(額乙丸町)

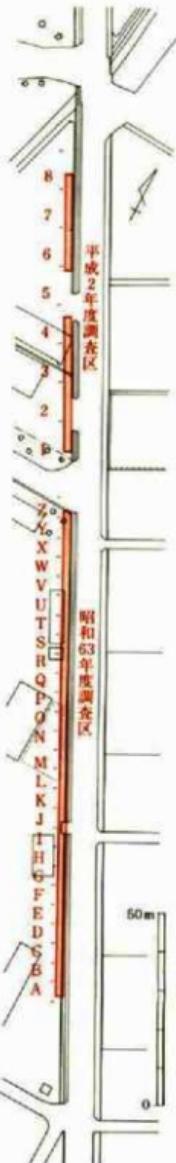
(平田)

第2節 平成2年度調査

平成2年度の調査は、前年度に行った分布調査の結果をうけて、平成2年5月7日から5月28日まで実施した。調査箇所は松任農業高校の東門から北側で、幅2m、延長53mを対象とした。面積は106坪である。調査にあたって埋蔵文化財センター調査員藤重啓の協力を得た。

遺物は整理用コンテナに1箱出土し、社団法人石川県埋蔵文化材保存協会に洗浄から浄書までを委託した。

(三浦)



第3章 遺構と遺物

第1節 昭和63年度調査

調査箇所は、松任農業高校の東門から南側で、幅約2m、延長約125mを対象として実施した。南端起点より調査区を5m区画のA～Z区というように呼称し、区画した。II区～Q区にかけては、昭和39年に実施した調査区と重複しており、深い遺構のみが遺存していたようである。全体で、溝4、ピット38が検出された。昭和39年の調査では、掘立柱建物1棟が検出されているので、これらピットも、柱穴の一部と考えられるが、建造物を確定することはできなかった。また、幅2mと言う制約と道路側溝兼用水等の構造物による損壊、攪乱などが重なり充分なる成果をあげることができなかつた。以下に、遺物を伴出した遺構を主にして、その遺構、遺物の概略について記すこととする。

1号溝 溝として取り扱ったが、深さ5～10cm、幅150～260cmを測るもので、ほぼ調査区に直交するもので不整形なものである。覆土は、暗茶褐色砂上である。出土遺物については、図化したのは第7図1～5であるが、大半が土師器であり、若干の須恵器と灰釉片1点も伴出している。1、2は、底径5～5.3を測り、糸切り痕を有する土師器の碗である。碗には、有台のものと無台の二種があるが、後者の方が圧倒的に多い。他に甕、鉢片が一点づつある。有台のものは、底部破片で10点出土している。それに比して無台のものは、底部片で33点と多い。須恵器は、少量で、杯、有台杯、蓋、壺、甕片が、それぞれ2～3点のみである。5の土錘は、長軸5.6cm、最大胴径3.3cm、重さ56.5gを測る通有のものである。

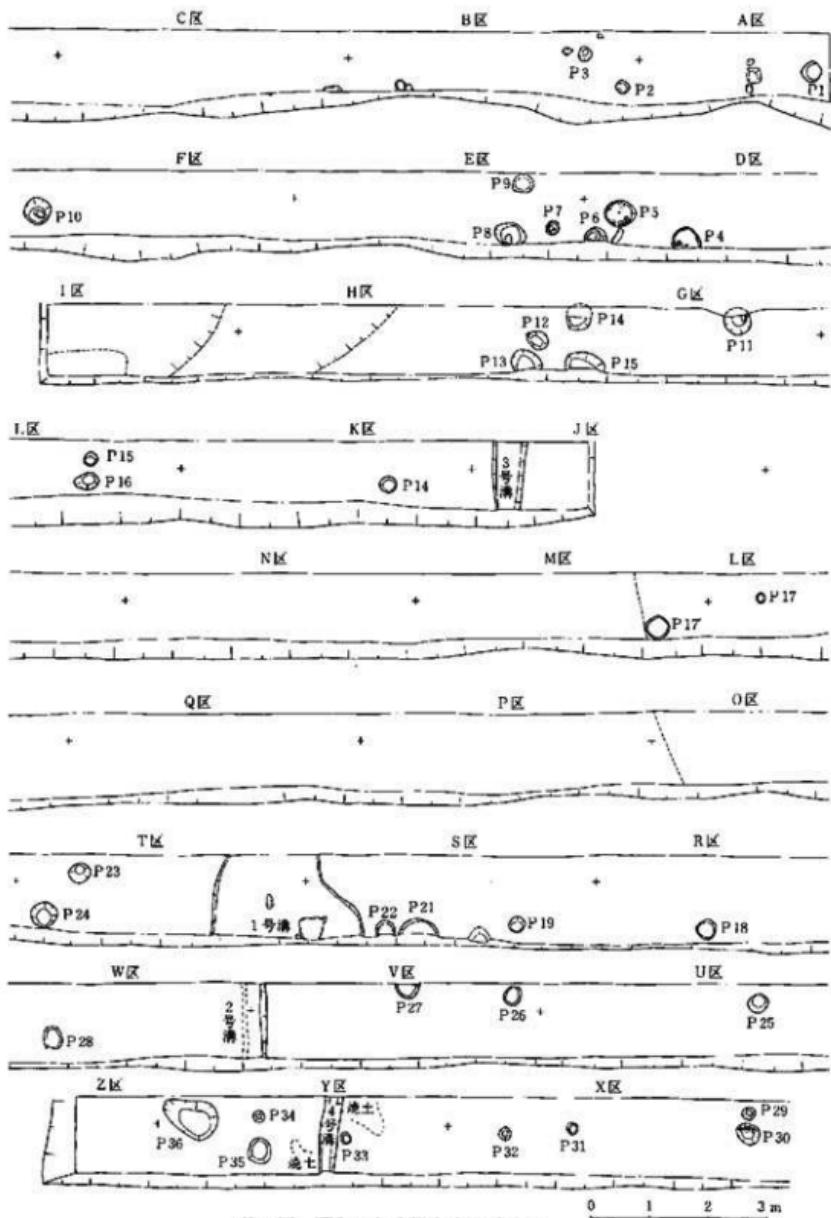
2号溝 V～W区にかけて検出したもので、ほぼ調査区と直交する。幅50cm前後、深さ5.5～8cmを測るもので、覆土は暗茶褐色土である。溝中央より北半は、攪乱を受けているので、正確な規模等については不明である。土師器と須恵器が出土しているが、土師器の方がやや多い。上師器では底部片で見る限り、無台のもの9片、有台のもの4片となり、他に甕、鉢片が少量ある。須恵器では、無台の杯がやや有台のものよりも多く、その他に、壺、甕片が1～2点ある。第7図6は、径12.1cm、器高4.4cm、底径4.8cmを測る無台碗で糸切り痕を有する。胎土には、海綿骨片を含んでいる。7、8、9の須恵器も伴出している。

3号溝 J区で検出したもので調査区にはほぼ直交するものである。幅40～60cm、深さ5～10cmを測り、覆土は暗茶褐色土である。伴出遺物はなかった。

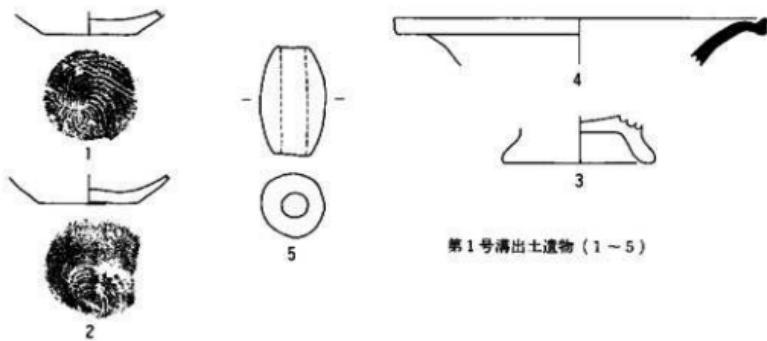
4号溝 Y区で検出したもので、調査区にはほぼ直交する。幅28～32cm、深さ15cmを測るものである。覆土は、暗茶褐色土である。伴出遺物は細片が多く、上師器が多い。しかも、無台の碗が多く10数点ある。須恵器は、壺、鉢片が各々1点ある。

ピット1 A区で検出したもので、やや隅丸方形を呈し、長軸33cm、短軸30cm、深さ20cmを測るものである。覆土は、暗茶褐色粘土である。伴出遺物は、第7図10の有台碗の台部と細片（ほとんどが碗片）が10数点ある。鉢片（約1×1×1.5cm）1点も伴出している。

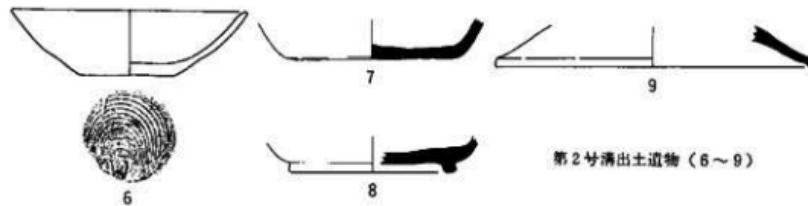
ピット2 B区で検出したもので、ほぼ隅丸方形を呈し、長軸23cm、短軸20cm、深さ29cmを測る。



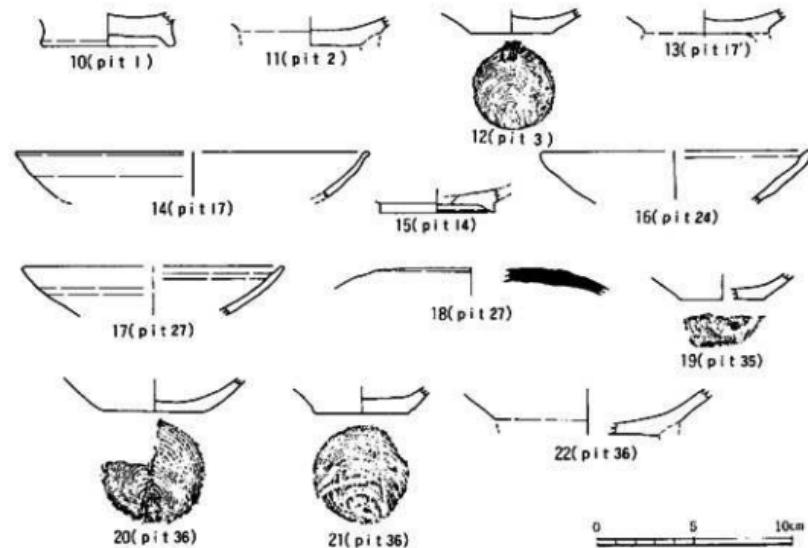
第6図 昭和63年度調査遺構平面図



第1号溝出土遺物（1～5）

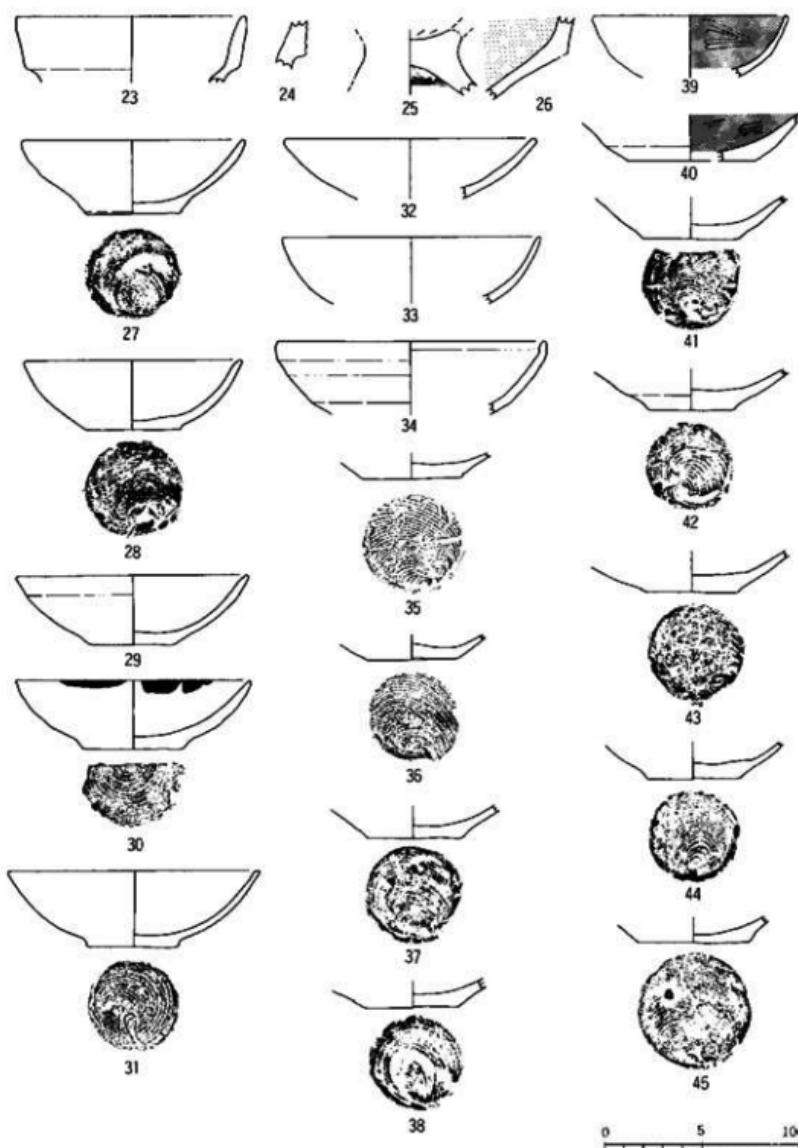


第2号溝出土遺物（6～9）



0 5 10cm

第7図 昭和63年度調査遺構出土遺物



第8図 昭和63年度調査区出土遺物

第7図11に示した有台碗のほかに、無台のものが底部片で5点と施洞片が10数点ある。須恵器の件出はない。他に、不明の鉄片、鉛津が各1点出土している。

ピット3 B区で検出したもので、楕円形を呈し、長軸25cm、短軸21cm、深さ11cmを測る。覆土は、暗茶褐色粘土である。第7図12の無台碗のほか、土師器小片9点が出土している。

ピット14 K区で検出したものではほぼ円形を呈し、径約28cm、深さ10cmを測り、浅い皿状をなす。第7図15の縁釉有台碗のほか、土師器小片1点が出土している。

ピット17 L区で検出したもので、ほぼ円形を呈し径約15cm、深さ6.5cmを測り、浅いものである。覆土は、暗黒灰色粘土である。第7図14の灰釉片1点が出土しているのみである。

ピット17' M区で検出したもので、径40cmの隅丸方形を呈し、深さ7cmを測るものである。第7図13の有台碗のほかに、無台底部片1、施洞片2点が出土している。

ピット24 T区で検出したもので、ほぼ円形をなし径約44cm、深さ30cmを測る。第7図16の土師器碗のほかに、無台底部片2、施洞片7、甕・鉢洞片1点が伴出している。

ピット27 V区で検出されたもので、ほぼ40cmの円形をなすもので、深さ25cmを測る。第7図17の土師器碗、18の須恵器蓋のほか土師器細片1があるのみである。

ピット35 Y区で検出したもので、ほぼ40cm前後で略円形で、深さ16cmを測る。第7図19の無台碗のほかに、土師器細片12点伴出している。

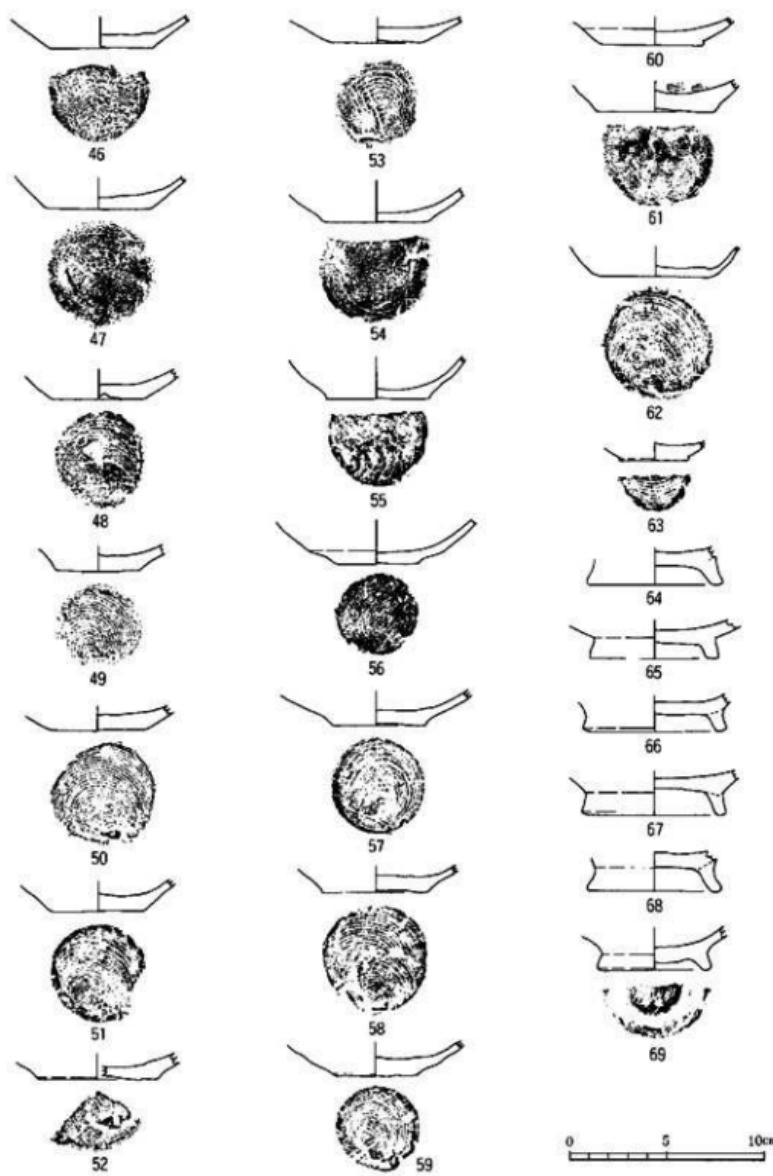
ピット36 Y区で検出したもので、長軸100cm、短軸60cm、深さ40cmを測る土坑である。第7図20～22の土師器碗のほかに、同じく無台7、有台3片（底部片）と施洞片40～50点と、須恵器では蓋、杯、小甕片が各1点、土鍾1点が伴出している。

以下、詳細については、出土土器一覧表にまとめた。

（平田）

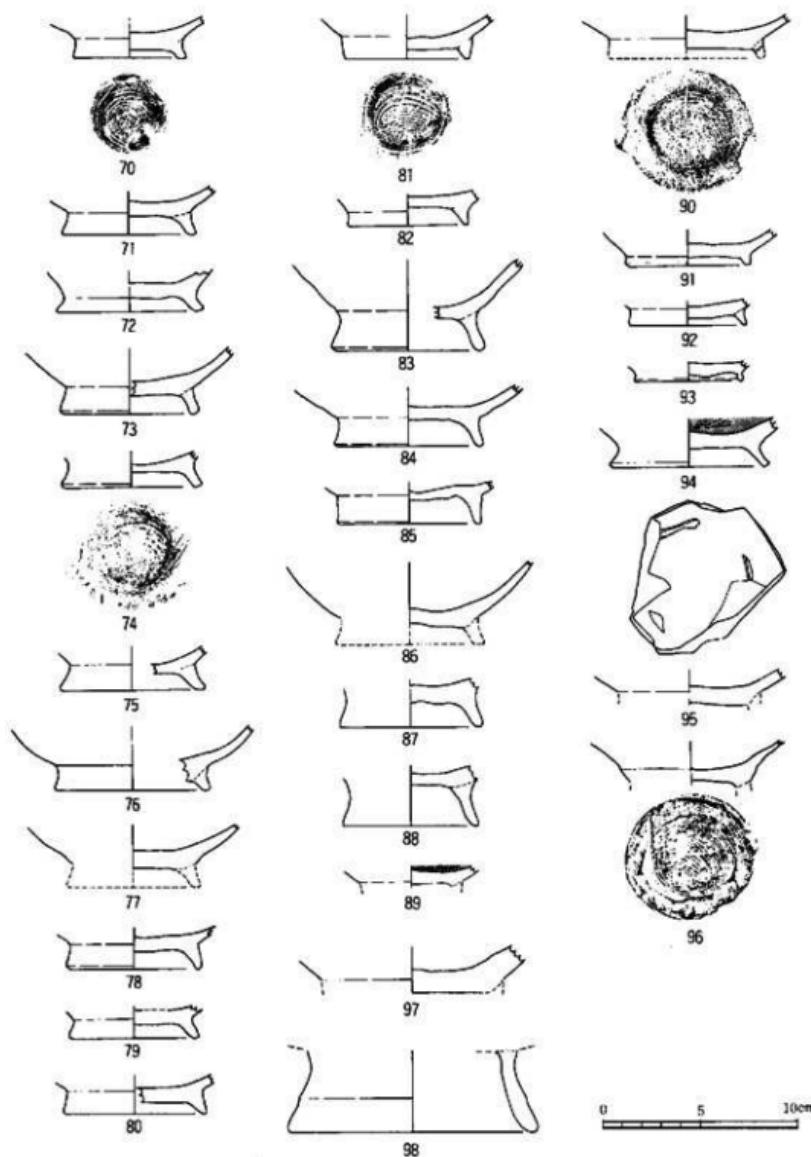
第2表 出土土器一覧表

番号	器種	口径	器高	胎土	焼成	色調	備考	出土区
第7図 1	土師器 碗	底径	5.0	砂粒の混入はほとんどない、海綿骨片含む	良	内外淡黄色	内外ヨコナデ	1号溝
第7図 2	土師器 碗	底径	5.3	微砂粒を含む、海綿骨片を含む	良	内外褐色	器面の磨耗著しく 調整不明	1号溝
第7図 3	土師器 有台碗	底径	7.8	純土塊（？）、海綿骨片を含む	良	内外褐色	内外ヨコナデ	1号溝
第7図 4	須恵器 壺		19.3	やや砂粒を含む	良	内外灰色	内外ヨコナデ 内面自然釉	1号溝
第7図 6	土師器 碗		12.1	微砂粒を多く含む、海綿骨片を含む	良	内外にぼい黄褐色	内外ともヨコナデ	2号溝
第7図 7	須恵器 杯	底径	9.3	2mm程度の礫を含む 砂粒多い	良	内外灰色	内ヨコナデ、底へラカリ	2号溝
第7図 8	須恵器 有台杯	底径	8.8	細砂粒を多く含む	良	内外灰色	内外ヨコナデ	2号溝
第7図 9	須恵器 蓋		16.4	細砂粒少ない	良	内外灰白色	内外ヨコナデ 器表に重ね焼痕	2号溝
第7図 10	土師器 有台碗	底径	6.8	海綿骨片を含む	良	内外淡黄色	器面の磨耗著しい	ピット1
第7図 11	土師器 有台碗			2～5mm前後の礫を含む	良	内淡黄色 外淡褐色	内外ヨコナデ	ピット2



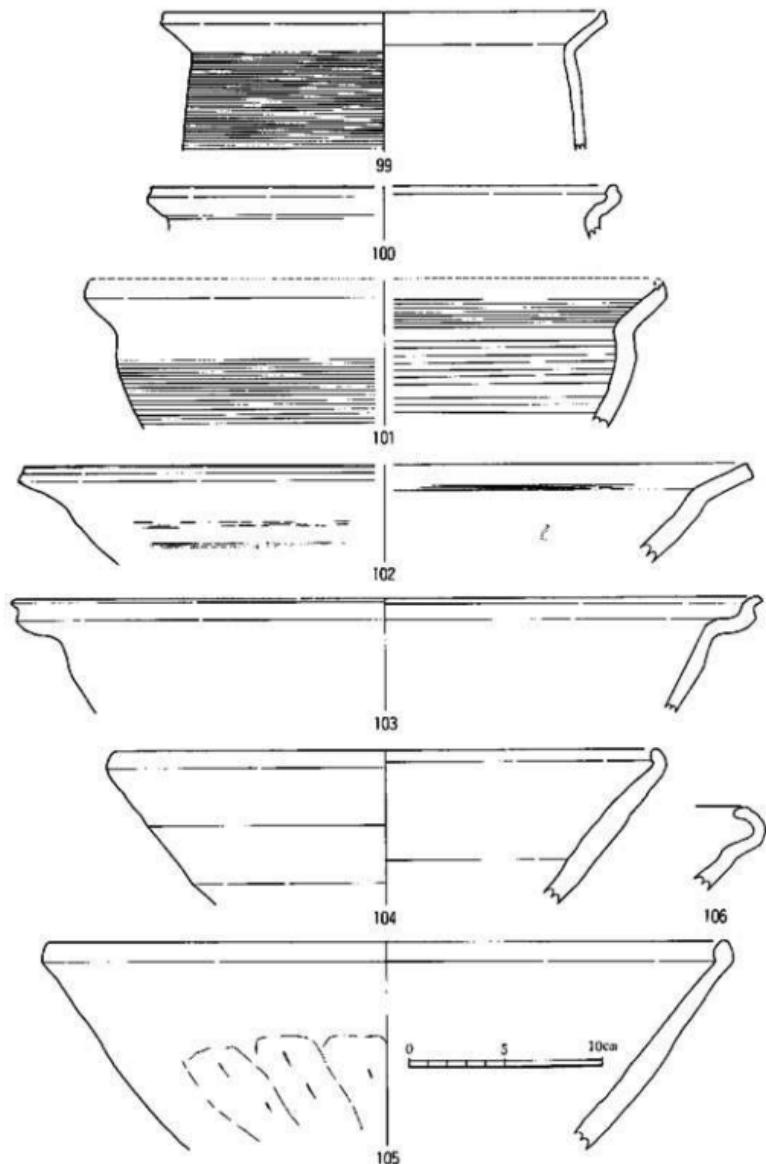
第9図 昭和63年度調査区出土遺物

番号	器種	口径	器高	胎土	焼成	色調	備考	出土区
第7回 12	土師器 碗	底径 2.4		海綿骨片を含む	良	内外とも 褐色	内外ヨコナデ	ピット3
第7回 13	土師器 有台碗			2~5mmの砂粒を含む	良	内外灰白色	内外ヨコナデ、貼 り付高台	ピット17
第7回 14	土師器 碗			非常に緻密で粘性あり	良	内灰褐色 外灰白色	内外ヨコナデ	ピット17
第7回 15	土師器 有台碗	底径 6.0		砂粒、礫を含まず鐵 青	良	暗褐色	内外ヨコナデ、鉄 青、内面使用痕	ピット14
第7回 16	土師器 碗	14(?)		0.5mm前後の砂粒を含む	良	内浅黄褐色 外橙色	内外ヨコナデ	ピット24
第7回 17	土師器 碗	13.0(?)		0.5mm前後の砂粒を含む	良	内浅黄褐色 外灰色	内外ヨコナデ	ピット27
第7回 18	土師器 蓋			2~5mmの砂粒を含む	良	内浅黄褐色 外灰褐色	内外ヨコナデ	ピット27
第7回 19	土師器 碗	底径 4.3		海綿骨片を含む	良	内暗黄褐色 外灰黑色	内外ヨコナデ	ピット35
第7回 20	土師器 碗	底径 5.4		海綿骨片を含む	良	内外とも 灰褐色	内外ヨコナデ	ピット36
第7回 21	土師器 碗	底径 5.0		海綿骨片を含む	良	内外灰褐色	内外ヨコナデ、底 糸切り	ピット36
第7回 22	土師器 有台碗			海綿骨片を含む 鐵 青	良	内浅黄褐色 外橙色	内外ヨコナデ	ピット36
第8回 23	土師器 亞	11.75		2~5mmの砂粒を含む	良	灰白色	内外ともにヨコナ デ	C区
第8回 24	土師器 甕			1mm前後の砂粒を含む	良	にぶい黄 褐色	無凹無凸	P区
第8回 25	土師器 台脚			2mm前後の礫を多く含む	良	褐色	内底はケズリ、外 底はハナナデ	P区
第8回 26	土師器 器台 (高杯)			2~5mmの砂粒を含む	良	内外とも 赤色	内外ともミガキ赤 色磨耗変形か	E区
第8回 27	土師器 碗	11.6	5.0	海綿骨片を含む	良	内外とも 淡褐色	内外ともにナデ	B区
第8回 28	土師器 碗	11.0	3.6	燒土塊(?)を含む	良	内外とも 褐色	内は土草、外は粗 なナデ	J区
第8回 29	土師器 碗	11.6	3.6	1mm前後の砂粒を少 し含む	良	内外とも に淡黄色	内外ともヨコナデ、 海綿骨片を含む	T区
第8回 30	土師器 碗	12.0	3.5	微砂粒を含む	良	内外とも に淡黄色	海綿骨片を含む、口 縁部にタール付着	P区
第8回 31	土師器 碗	11.9	4.0	微砂粒をわずかに含む	良	内外とも に灰白色	海綿骨片を含む	P区
第8回 32	土師器 碗	13.0	残存 3.1	海綿骨片を含む	良	内黄褐色 外灰褐色	内外ともヨコナデ	R区
第8回 33	土師器 碗	13.4	3.5	燒土塊(?)、海綿骨片 を含む	良	内外とも 褐色	内外ともヨコナデ	K区
第8回 34	土師器 碗	14.0	残存 3.8	海綿骨片を含む	良	内外とも 褐色	内外ともヨコナデ	K区
第8回 35	土師器 碗	底径 5.2		散砂粒、燒土塊(?)を 含む	良	内外とも 灰白色	内外ともヨコナデ	R区
第8回 36	土師器 碗	底径 4.7		燒土塊(?)を含む	良	内浅黄褐色 外褐色	内外ともヨコナデ	S区
第8回 37	土師器 碗	底径 4.9		燒土塊(?)を多く含む	良	内外とも 褐色	内外ともヨコナデ 内面に吸抜	R区
第8回 38	土師器 碗	底径 4.8		2~5mmの砂粒を含む	良	内灰褐色 外にぶい褐 色	内外ともヨコナデ	R区
第8回 39	土師器 碗	10.0		0.5mm前後の砂粒を 含む	良	内黑、外 灰白色	内外ヨコナデ、内面 ミガキか	D区
第8回 40	土師器 碗	底径 6.5		砂粒を多く、海綿骨 片を含む	良	内黑、外 灰白色	内面ミガキ、外振 盪ケズリか	E区
第8回 41	土師器 碗	底径 4.9		2~5mmの砂粒を含む	良	内外とも 浅い黄褐色	内外ともヨコナデ	R区
第8回 42	土師器 碗	底径 4.4		海綿骨片を含む	良	内外とも 浅い黄褐色	内面ともヨコナデ	R区



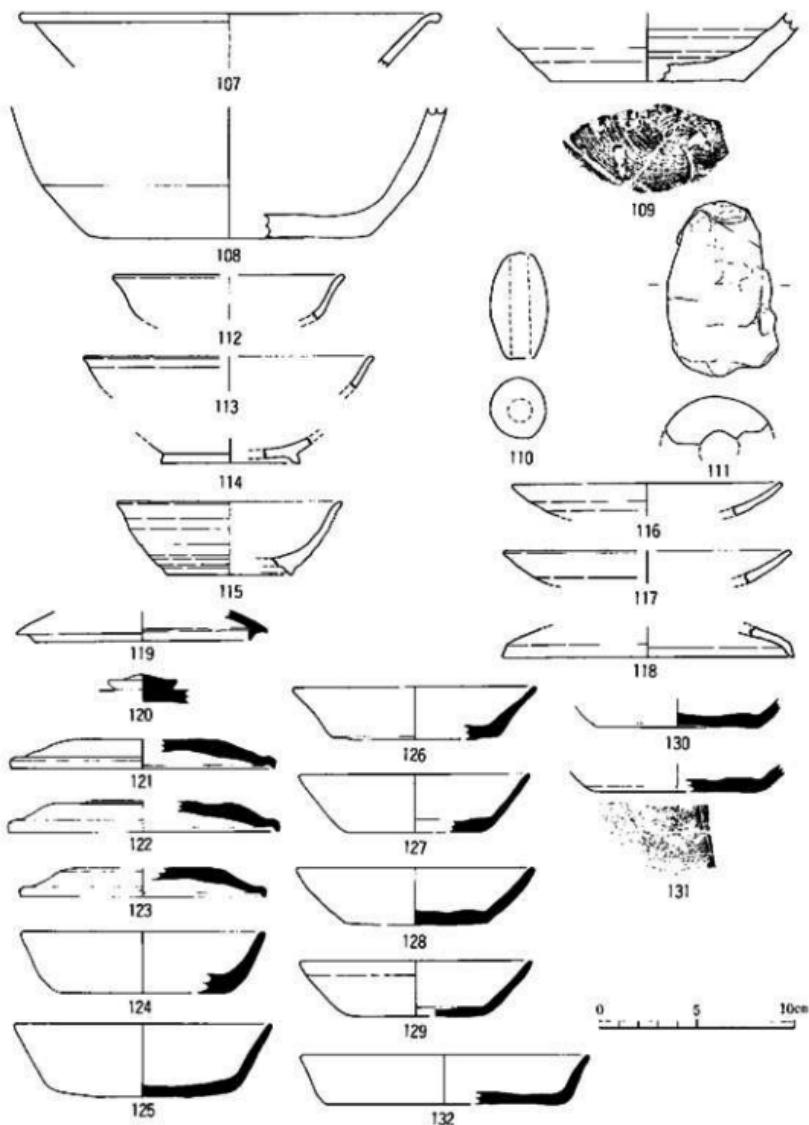
第10図 昭和63年度調査区出土遺物

番号	器種	口径	器高	胎土	焼成	色調	備考	出土区
第8回 43	土師器	鉢	底径 4.8	2~3mm大的礫を含む燒土塊(?)を含む	良	内外とも 褐色	内外ともヨコナデ 底部糸切り	R区
第8回 44	土師器	鉢	底径 4.8	燒土塊(?)、海綿骨片を含む	良	内外とも 褐色	器表磨耗著しい	R区
第8回 45	土師器	鉢	底径 5.8	砂粒をほとんど含まない、海綿骨片含む	良	内外とも 褐色	内外ともヨコナデ 内ミガキ?	R区
第9回 46	土師器	鉢	底径 5.4	砂粒をほとんど含まない、燒土塊(?)含む	良	内外とも 褐色	内外とも磨耗が著 しい	P区
第9回 47	土師器	鉢	底径 5.5	1~2mmの砂粒を含む燒土塊(?)を含む	良	内外とも 褐色	内外とも磨耗著し い、海綿骨片含む	Q区
第9回 48	土師器	鉢	底径 5.0	散砂粒を少し含む	良	内外とも 淡黄色	内外とも磨耗著し い	S区
第9回 49	土師器	鉢	底径 4.4	2mm前後の砂粒少し含む、海綿骨片を含む	良	内暗赤灰 外浅褐色	内外ともヨコナデ	P区
第9回 50	土師器	鉢	底径 5.1	0.5mm前後の砂粒を含む	良	内に紫 外灰白色	内外ともヨコナデ	K区
第9回 51	土師器	鉢	底径 4.8	海綿骨片を含む	良	内外とも 淡黄褐色	内外ともヨコナデ 、内ミガキ?	B区
第9回 52	土師器	鉢	底径 5.3	散砂粒を多く含む	良	内外とも 淡黄褐色	内外ともヨコナデ	B区
第9回 53	土師器	鉢	底径 4.8	燒土塊(?)、海綿骨片を含む	良	内外とも 褐色	内外ともヨコナデ	Q区
第9回 54	土師器	鉢	底径 5.8	砂粒かなり多くを含む	良	内外とも 淡黄褐色	内外ともヨコナデ	K区
第9回 55	土師器	鉢	底径 5.4	海綿骨片を含む	良	内外とも 黃褐色	内外ともヨコナデ	K区
第9回 56	土師器	鉢	底径 4.4	1mm以下の砂粒わずかに含む	良	内外とも 褐色	内外ともヨコナデ	J区
第9回 57	土師器	鉢	底径 4.8	2~5mm位の砂粒を含む	良	内外とも 灰白色	内外ともヨコナデ	B区
第9回 58	土師器	鉢	底径 5.8	海綿骨片を含む	良	内外とも 淡黄褐色	内逆「の」の字ヨ コナデ	R区
第9回 59	土師器	鉢	底径 4.4	2~5mmの砂粒を含む	やや 不良	内外とも 灰白色	内外ヨコナデ	A区
第9回 60	土師器	鉢	底径 5.1	海綿骨片を含む	良	内浅黃 外淡褐色	内外ともヨコナデ 底部糸切り	R区
第9回 61	土師器	鉢	底径 6.0	2~5mmの砂粒を含む	やや 不良	内黑 外灰白色	内ミガキ外ヨコナ デ	D区
第9回 62	土師器	鉢	底径 5.5	0.5mm前後の砂粒を含む	良	内外とも 淡黄褐色	内外ともヨコナデ	A区
第9回 63	土師器	鉢	底径 3.6	海綿骨片を含む	良	内外とも 淡黄褐色	内外ともヨコナデ	A区
第9回 64	土師器	有台輪	底径 7.0	海綿骨片を含む	良	内外とも 褐色	内外とも磨耗が著 しい	X区
第9回 65	土師器	有台輪	底径 6.6	散砂粒を少し含む 海綿骨片を含む	良	内外とも 明黄褐色	内外ともヨコナデ	Y区
第9回 66	土師器	有台輪	底径 7.4	散砂粒を少し含む 海綿骨片を含む	良	内外とも 褐色	内外とも磨耗が著 しい	P区
第9回 67	土師器	有台輪	底径 7.4	0.5~1mmの砂粒を少し含む	良	内外とも 淡黄褐色	内外とも磨耗が著 しい	S区
第9回 68	土師器	有台輪	底径 6.9	1mm前後の砂粒を少量含む	良	内外とも 褐色	内面磨耗著しい台 内コナデ	S区
第9回 69	土師器	有台輪	底径 5.8	2~5mmの砂粒を含む	良	内外とも 淡黄褐色	内外ともヨコナデ 台内に糸切り残す	A区
第10回 70	土師器	有台輪	底径 5.9	0.5~1mmの砂粒をわずかに含む	良	内外とも 褐色	内外ともヨコナデ 海綿骨片を含む	S区
第10回 71	土師器	有台輪	底径 6.8	燒土塊(?)、海綿骨片を含む	良	内外とも 褐色	内外ともヨコナデ 台内に糸切り残す	Q区
第10回 72	土師器	有台輪	底径 7.6	燒土塊(?)、海綿骨片を含む	良	内外とも 褐色	内外ともヨコナデ 台内に糸切り残す	J区
第10回 73	土師器	有台輪	底径 7.2	1~1.5mmの礫を含む燒土塊(?)を含む	良	内外とも 灰白色	内外ともヨコナデ	A区
第10回 74	土師器	有台輪	底径 8.0	1mm程度の砂粒を含む	良	内外とも 灰色	内外ともヨコナデ 台内に糸切り残す	M区



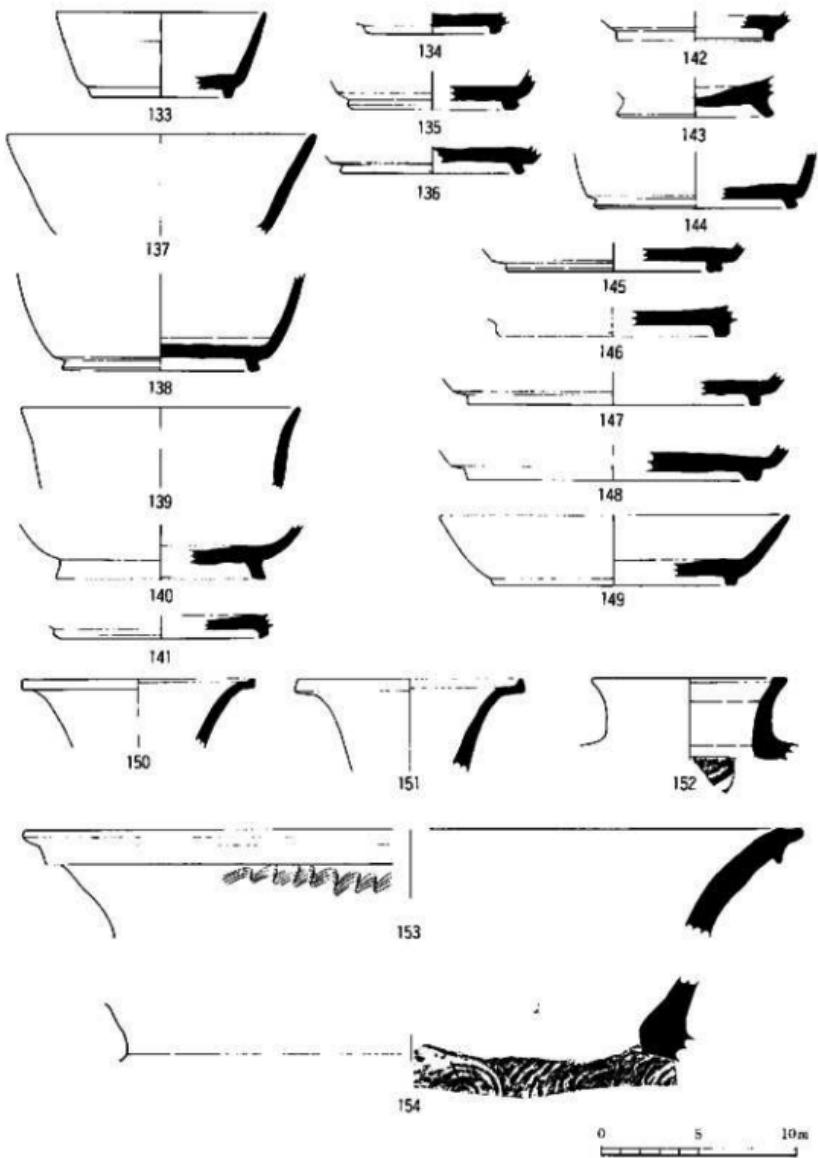
第11図 昭和63年度調査区出土遺物

番号	器種	口径	器高	胎土	焼成	色調	備考	出土区
第10回 75	土師器 有台輪	底径	7.5	織砂粒を含む	良	内外とも 褐色	内外ともヨコナデ	R区
第10回 76	土師器 有台輪	底径	8.0	1mm以下の砂粒を含む	良	内外とも 褐色	内外ともヨコナデ	M区
第10回 77	土師器 有台輪			燒土塊(?)、曲面骨片 を含む	良	内外とも 褐色	内外ヨコナデ、台 内系切り残る	K区
第10回 78	土師器 有台輪	底径	7.0	海綿骨片を含む	良	内灰褐色 外浅黄色	内外ともヨコナデ	G区
第10回 79	土師器 有台輪	底径	6.7	1mmの砂粒を含む 燒土塊(?)を含む	良	内外とも 褐色	内外ともヨコナデ 海綿骨片含む	Y区
第10回 80	土師器 有台輪	底径	7.3	海綿骨片を含む	良	内外とも 浅黄褐色	内外ともヨコナデ	Q区
第10回 81	土師器 有台輪	底径	6.4	燒土塊(?)を含む	良	内外とも 淡黄色	内逆「の」字ナ デ、台内に糸切り	S区
第10回 82	土師器 有台輪	底径	6.2	1mm前後の砂粒をわ ずかに含む	良	内外とも 褐色	器表の磨耗著しい	S区
第10回 83	土師器 有台輪	底径	8.0	2~5mmの砂粒を含む	良	内外にぶ い褐色	磨耗著しい	B区
第10回 84	土師器 有台輪	底径	7.7	海綿骨片を含む	良	内外とも 褐色	磨耗著しい	B区
第10回 85	土師器 有台輪	底径	7.5	0.5mm前後の砂粒を含 む	良	内外とも 浅黄褐色	内外ともヨコナデ	E区
第10回 86	土師器 有台輪			燒土塊(?)、海綿骨片 を含む	良	内外とも 褐色	器表の磨耗著しい	J区
第10回 87	土師器 有台輪	底径	7.4	燒土塊(?)、海綿骨片 を含む	良	内外とも 褐色	磨耗著しい	M区
第10回 88	土師器 有台輪	底径	7.0	1mm以下の砂粒を少 し含む	良	内外とも 褐色	内外ともヨコナデ	P区
第10回 89	土師器 有台輪			海綿骨片を含む	良	内黒、外 灰白色	内ミガキ、外面不 明	P区
第10回 90	土師器 有台輪			ほとんど砂粒を含ま ない、海綿骨片含む	良	内外とも 灰白色	内外ともヨコナデ	Q区
第10回 91	土師器 有台輪	底径	6.6	織砂粒を少量含む 海綿骨片を含む	良	内外浅黄 褐色	内外ともヨコナデ	S区
第10回 92	土師器 有台輪	底径	6.0	燒土塊(?)、海綿骨片 を含む	良	内外とも 褐色	器表の磨耗著しい	M区
第10回 93	土師器 有台輪	底径	5.5	0.5mm前後の砂粒を含 む	良	内外とも 灰白色	内不明、外ヨコナ デ	D区
第10回 94	土師器 有台輪	底径	8.2	0.5mm前後の砂粒を含 む	良	内黒、外 灰白色	内ミガキ、外ヨコ ナデ	E区
第10回 95	土師器 有台輪			燒土塊(?)多含、海綿 骨片を含む	良	内外とも 褐色	内外ともヨコナデ 重ね焼成あり	P区
第10回 96	土師器 有台輪			海綿骨片を含む	良	内外とも 浅黄褐色	内外ヨコナデ	B区
第10回 97	土師器 台付鉢			燒土塊(?)を含む、海 綿骨片を含む	良	内外とも 灰白色	内外ともヨコナデ	V区
第10回 98	土師器 台付鉢	底径	13.0	海綿骨片を含む	良	内外とも 浅黄褐色	内外ともヨコナデ	M区
第11回 99	土師器 盤		22.8	1mm前後の砂粒を少 量含む	良	内外とも 灰白色	内外ともヨコナデ	Q区
第11回 100	土師器 盤		23.8(?)	0.5mm前後の砂粒を含 む	良	内外とも 灰白色	内外ともヨコナデ	D区
第11回 101	土師器 鍋			1~2mm前後の砂粒を 多く含む	良	内外とも 淡黄色	内外とも想いがけ 日(1.3~1mm程度)	拂土
第11回 102	土師器 鍋		37.2	2~5mmの砂粒を含 む	良	内灰白、 外浅黄褐色	内外ともヨコナデ (ハケ)	A区
第11回 103	土師器 鍋		38.2	0.5~1mm位の砂粒 を含む	良	内外とも 褐色	内外とも磨耗が著 しく不明	X区
第11回 104	土師器 鍋		27.8	織砂粒を含む	良	内外にぶ い褐色	内外ヨコナデ、外 下部粗いケズリ	T区
第11回 105	土師器 鍋		35	0.5~1mmの砂粒を含 む	良	内外浅黄 褐色	外面に係付着、外 面粗いケズリ	S区
第11回 106	土師器 鍋			0.5~1mmの砂粒を少 量含む	良	内外とも 灰白色	内外ともヨコナデ	V区



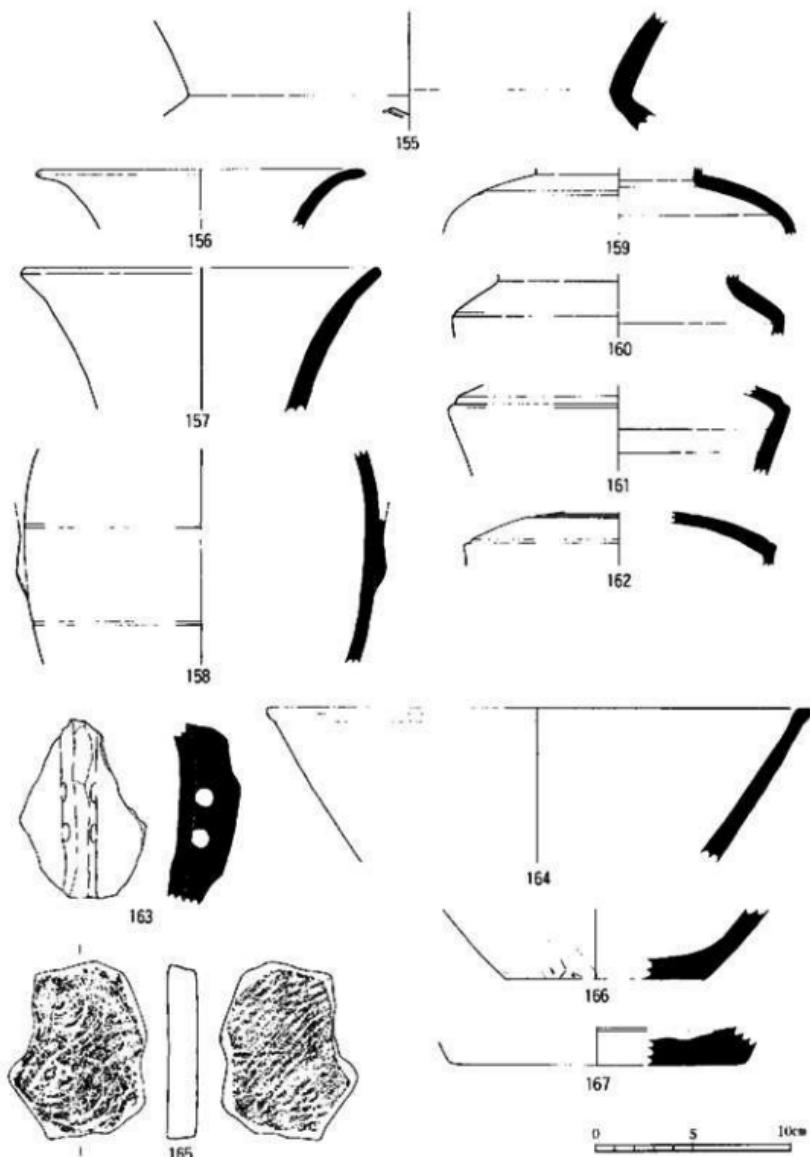
第12図 昭和63年度調査区出土遺物

番号	器種	口径	器高	胎土	焼成	色調	備考	出土区
第1288 107	土師器		12.0	燒土塊(?)。海綿骨片を含む	良	内外に上い青色橙	内外ともヨコナデ	M区
第1289 108	土師器 鉢(?)	底径	14.6	0.5~1mmの砂粒を少含燒土塊(?)、海綿骨片を含む	良	内黒、外灰黃色	内ミガキ、外ケズリ	S区
第1290 109	土師器 要底部	底径	10	1mm以下の砂粒を含む	良	内にふい青橙色外	内外ともヨコナデ	M区
第1291 110	土師器	最大開 径	1.9	長軸 3.0 0.5mm位の砂粒を少含む	良	淡黃色	燒土塊(?)を含む	S区
第1292 111	輪の羽口	径約	6	2mm以下の礫を含む	良	黄橙色		J区
第1293 112	輪	柄	15	きめ細かい須恵質	良	内外とも浅い褐色		Q区
第1294 113	縁輪	柄	15	きめ細かい須恵質	良	つやのある暗い綠	細片	Q区
第1295 114	縁輪	柄	底径 7.2	非常にきめ細かい土質質	良	つやのある明るい綠	底内外面とも縁輪がかかる	B区
第1296 115	縁輪	柄	10.6	3.8 非常にきめ細かい土質質	良	つやのある明るい綠	口唇肥大化、内外とも縁輪がかかる	M区
第1297 116	灰釉	皿	12.8	やや砂粒を含む	良	内外とも綠灰色		A区
第1298 117	灰釉	皿	14.7(?)	0.5~1mmの礫を含む	良	内外とも灰綠色	内面の點織かい斑文様を呈する	S区
第1299 118	灰釉	蓋	15	ほとんど礫を含まない	良	内外とも灰綠色	輪は外面のみ須恵質の焼け方	R区
第1300 119	須恵器	蓋	13	微砂粒を含む	良	内外とも灰色	内外ともヨコナデ	P区
第1301 120	須恵器	つまみ 怪	3.5	1mm程度の砂粒を含む	良	内外とも灰色		U区
第1302 121	須恵器	蓋	13.8	砂粒多い 黒色粒の吹き出し多い	良	内外とも灰色	口縁外面上に重ね焼痕の自然輪	D区
第1303 122	須恵器	蓋	14	砂粒や多い	良	内外とも灰色	口縁外面上に重ね焼痕の自然輪	Q区
第1304 123	須恵器	蓋	12.6	やや砂粒多い	良	内灰色、外暗灰色	外全面落灰灰自然輪 内面ヘラ記号あり	C区
第1305 124	須恵器	杯	6.4	3.2 0.5~1mmの砂粒少し含む	良	内外とも灰色	内外ともヨコナデ	Q区
第1306 125	須恵器	杯	13.2	3.8 砂粒を多く含む	良	内外とも灰色	口縁部外面上に重ね焼痕	G区
第1307 126	須恵器	杯	12.8	2.7 砂粒多く含む、礫も少量含む	良	内外とも灰色	内外ともヨコナデ	D区
第1308 127	須恵器	杯	12.0	3.0 小礫(0.5~1mm)を少量	良	内外とも灰色	内外ヨコナデ、口縁外重ね焼痕あり	R区
第1309 128	須恵器	杯	12.2	2.95 0.5~1mmの礫少量含む	良	内外とも灰色	内外ともヨコナデ	F区
第1310 129	須恵器	杯	12.0	2.9 砂粒を少量含む	良	内外とも灰色	内外ともヨコナデ 口縁外重ね焼痕	E区
第1311 130	須恵器	杯	底径 8.4	1mm以下の砂粒を少し含む	良	内外とも灰白色	内外二次的風化(酸化)の為不明	P区
第1312 131	須恵器	杯	底径 9.0	非常にきめ細かくほとんど砂粒を含まず	良	内外とも灰青色	折本の横段のものは新しい傷	M区
第1313 132	須恵器	蓋	15.0	2.6 きめ細かくほとんど砂粒を含まない	良	内外とも灰青色	外面自然輪、底部丁寧なケズリ	C区
第1314 133	須恵器	有台杯	5.8	4.4 0.5mm程度の砂粒を含む	良	内深色 外暗灰色	内外ともヨコナデ	X区
第1315 134	須恵器	有台杯	7.0	1mm以下の礫多く含む	良	内灰色 外暗灰色	底面ヘラキリ、黑色粒の吹き出し	U区
第1316 135	須恵器	有台杯	底径 9.0	0.5mm程度の礫を含む	良	内外灰黑色	内外ともヨコナデ	P区
第1317 136	須恵器	有台杯	底径 9.6	わずかに小礫を含む程度	良	内外灰黑色	内外ともヨコナデ黑色粒吹き出しあり	P区
第1318 137	須恵器	有台杯	12.0	0.5~1mm程度の礫を多く含む	良	内淡灰、外灰黑色	内外ともヨコナデ	R区
第1319 138	須恵器	有台杯	底径 10.2	少し微砂粒を含む程度	良	内外とも灰色	内外ヨコナデ、底ハサ切り	P区



第13図 昭和63年度調査区出土遺物

番号	器種	口径	器高	胎土	焼成	色調	備考	出土区
第13回 139	須恵器 有台环		14.4	0.5mm以下の砂粒少し含む	良	内灰褐色 外暗灰色	内外ともヨコナデ	V区
第13回 140	須恵器 有台环	底径	10.8	1mm以下の砂粒を含む	良	内外とも 灰色	底内面使用のため 磨滅	E区
第13回 141	須恵器 有台环	底径	11.0	微砂粒をやや含む	良	内外とも 灰色	内外ともヨコナデ	P区
第13回 142	須恵器 有台环	底径	11.0	微砂粒を含む程度	良	内外とも 灰色	内外ともヨコナデ	P区
第13回 143	須恵器 有台环	底径	11.0	1~2mmの硬少し含む	良	内外とも 灰色	内外ともヨコナデ 底内使用痕跡あり	V区
第13回 144	須恵器 有台环	底径	10.4	0.5mm以下の砂粒を含む程度	良	内外とも 灰色	内外ともヨコナデ	P区
第13回 145	須恵器 有台环	底径	11.0	1mm程度の砂粒少し含む	不良	内外とも 淡黄褐色	内外ともヨコナデ	Y区
第13回 146	須恵器 有台环	底径	12.0	0.5mm以下の砂粒を含む程度	良	内外とも 灰色	内外ともヨコナデ	P区
第13回 147	須恵器 有台环	底径	15.0	微砂粒を少し含む程度	良	内外とも 灰色	内外ヨコナデ 内 面重ね焼痕あり	T区
第13回 148	須恵器 有台环	底径	15.0	1~2mm程度の砂粒を多くふくむ	良	内外灰褐色	内外ともヨコナデ	V区
第13回 149	須恵器 有台环		17.8	3.65 0.5~1mm程度の砂粒を含む	良	内外とも 灰色	内外ともヨコナデ	X区
第13回 150	須恵器 壺		12.0	微砂粒を含む程度	良	内灰褐色 外暗灰色	内外ヨコナデ	Z区
第13回 151	須恵器 壺		11.8	0.5mm以下の砂粒少し含む	良	内外灰褐色	内外ヨコナデ	Y区
第13回 152	須恵器 横瓶		10.0	1mm以下の砂粒少し含む	良	内外灰褐色	内外ヨコナデ、外 自然釉	R区
第13回 153	須恵器 壺		40	2mm以下の砂粒を含む	良	内外灰褐色	内外ヨコナデ、内 外自然釉	R区
第13回 154	須恵器 壺			2mm以下の砂粒を含む	良	内外灰褐色	内外とも自然釉	P区
第14回 155	須恵器 壺			5mm以下の礫を含む	良	内外とも 灰色	内外ヨコナデ	Q区
第14回 156	須恵器 壺		16.4	1~5mm以下の砂粒を含む	良	内灰褐色 外暗灰色	内面に露灰による 自然釉	B区
第14回 157	須恵器 壺		18.2	黒色粒の突き出しがある	良	内外灰褐色	内外ともヨコナデ	B区
第14回 158	須恵器 耳環人 形	径	18.4	1mm以下の砂粒を含む	良	内外灰褐色	外面緑色の自然釉	U区
第14回 159	須恵器 壺			1mm以下の砂粒を含む	良	内外灰褐色	内外ヨコナデ、外 面や自然釉	鉢土
第14回 160	須恵器 壺			微砂粒をやや含む程度	良	内外灰褐色	内外ヨコナデ、肩 に緑色自然釉	W区
第14回 161	須恵器 壺			1mm以下の砂粒を含む	良	内外うすい灰褐色	内ヨコナデ、外肩 下位ケズリ	U区
第14回 162	須恵器 壺			微砂粒を含む程度	良	内灰褐色、 外暗灰色	内外ともヨコケズ リ	S区
第14回 163	須恵器 双耳瓶			3mm以下の砂粒を含む	良	内外灰褐色	内外ヨコナデ、外 オリーブ色自然釉	A区
第14回 164	須恵器 鉢		28	3mm以下の砂粒を含む	良	内外灰褐色	内外ともヨコナデ	S区
第14回 165	須恵器 燒			1~2mm以下の砂粒を含む	良	内外灰褐色	内外破面とも二次 的な磨耗	F区
第14回 166	須恵器 鉢	底径	11.2	1~2mmの砂粒少し含む	良	内外灰褐色	内不定方向ナデ、 外ケズリ	Y区
第14回 167	須恵器 壺	底径	15	2~5mm程度の礫を含む	良	内褐灰色 外灰褐色	内外ナデ	P区



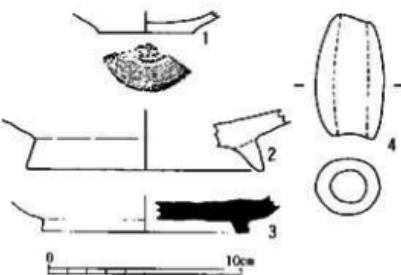
第14図 昭和63年度調査区出土遺物

第2節 平成2年度調査

調査区は松任農高東門北端を基点として、10mごとに一区画とし、第1区、第2区というように呼称した。

調査区には1.2mの盛土がなされている。盛土の下には旧水田の耕上、床上があり、その下に一層をはさんで褐色を呈する包含層が存在する。包含層は第3区まで存在することより、この地点を本遺跡の北端部とみなすことができる。包含層は二層に分けられ、第7

層としたものでは遺物の包含は少ない。遺構は第1区から第2区にかけて3個のピットが検出された。出土遺物には第16図に示したように、土瓶器、須恵器、土鍬がある。1・2が第2区、3・4が第1区より出土している。



第16図 平成2年度調査区出土遺物 1/3

(三 準)

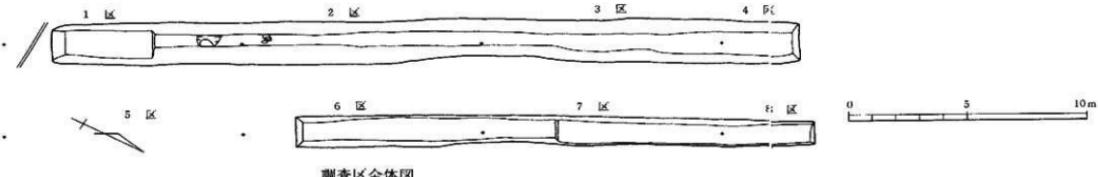
第4章 おわりに

以上、昭和63年度と平成2年度に実施した二次の調査報告を終わりとする。いずれも調査区と平行して県道および用水路が架設され工事中の破損等から遺存状態はかならずしも良好とは言えない。また、西接する県立松任農業高校の敷地造成および建築物等による擾乱も随所に見られた。また、工事範囲(調査範囲)が歩道整備と言うこともあって、調査幅1~2m、延長約200mの南北に細長いトレンチ調査となった。その結果、本遺跡の南北の範囲がほぼおさえられたものと思われる。また、昭和59年に実施した松任農業高校実習棟にかかる免掘調査、同じく平成2年度の実習棟にかかる調査などから、本遺跡の西限についてもほぼ推定される資料が得られたと思われる。つまり、松任農業高校の敷地内を流れる中村用水あたりが西限と推定される。東限については、県道を超えた水田中にも土器類の出土が報ぜられており、遺跡の主要部分については、県道より東側の水田中に拡がるものと思われる。

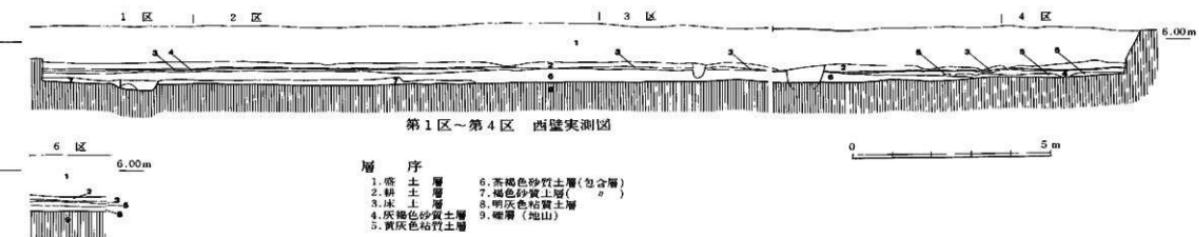
検出遺構では、ピット、溝などがあるが、調査幅に限界があって建物等の規模等を把握するまではいたっていない。おそらく数棟の掘立柱建物が所在したと思われるが不明である。一方、検出遺物では、昭和39年に石川考古学研究会が免掘調査を実施した際の三浦上層にあたるものが、大半である。その内容についても、それ以上のものでもない。今回の調査でも、輪の羽口、鉄錆の川土等から、集落内で小規模ながら鍛冶作業が行われていたことが再確認された。縁結陶器、灰釉陶器についても細片であるが、先の調査同様に一定量が出土している。

以上で、紙数の関係もあるので、報告の終りとする。

(平 田)



调查区全体図

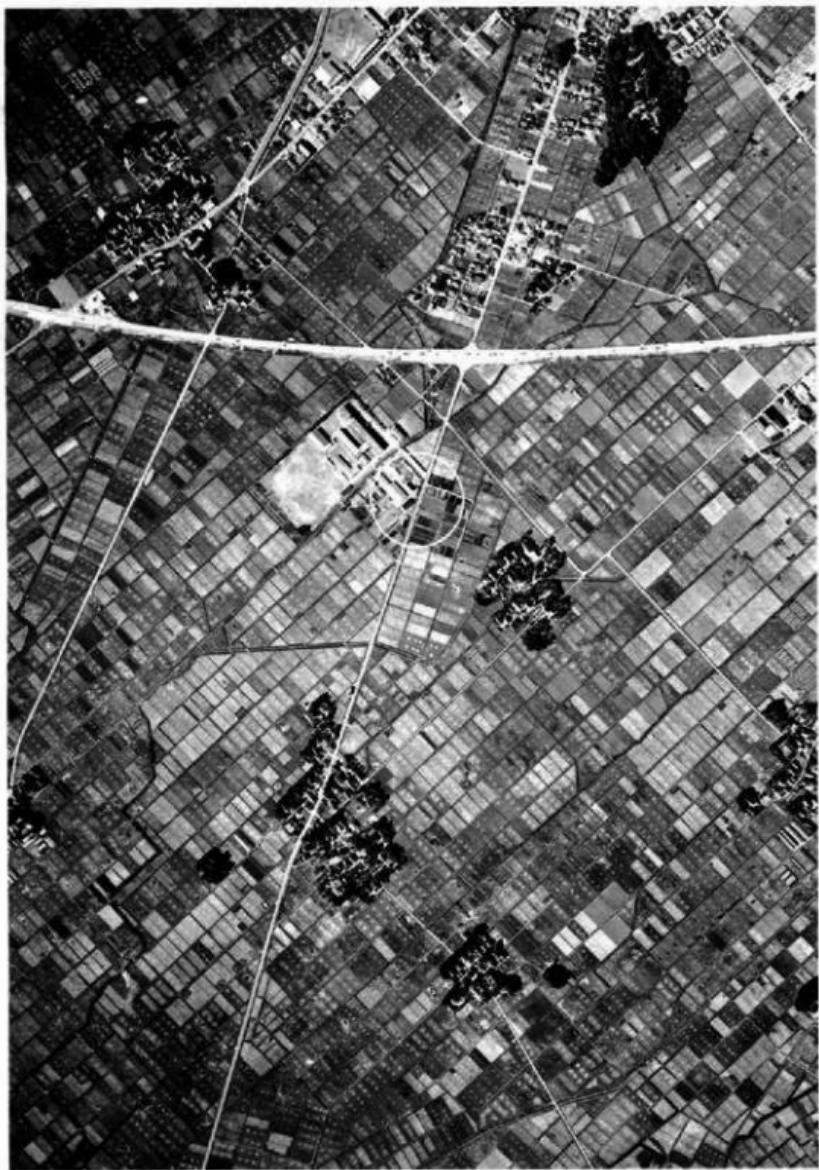


第1区～第4区 西壁実測図

- | 層序 | |
|----------------|---------------------------|
| 1. 塗
土
層 | 6. 黄褐色砂質土層(包含層) |
| 2. 砂
質
層 | 7. 棕色砂質土層(^z) |
| 3. 床
上
層 | 8. 黑灰色粘質土層 |
| 4. 灰褐色砂質土層 | 9. 墓碑(地山) |
| 5. 黄灰色粘質土層 | |

第6区西壁実測図

第15図 平成2年度調査区全体図・土層図



遺跡周辺の航空写真 (1 / 10,000) (昭和40年10月14日撮影)



調査前全景（南より）



調査区排土中（南より）



P 1～P 3 (南より)



P 4～P 9 (北より)



P10～P15（北より）



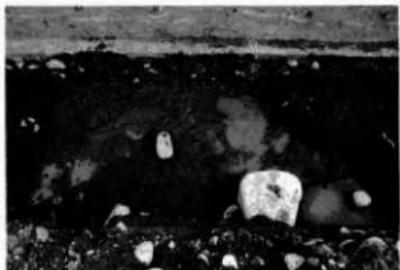
P18～P22、1号溝など（南より）



1号溝、P23~P25など（北より）



4号溝、P31~P36など（北より）



1号溝（西より）



3号溝（東より）



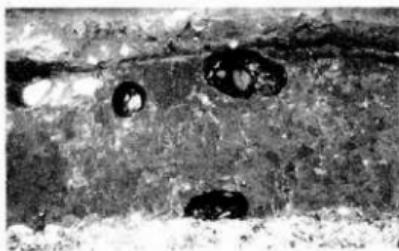
4号溝、P33、P34、P35、P36（東より）



P4、P5（東より）



P5、P6、P7、P8、P9（東より）



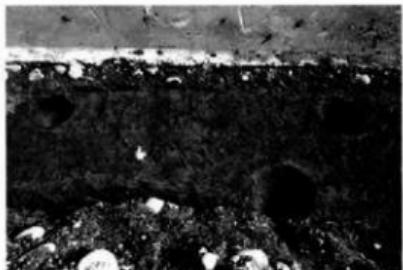
P6、P7、P8、P9（東より）



P10（東より）



P12、P13、P14、P15（東より）



P23, P24, P25 (東より)



P28, P29, P30 (南より)



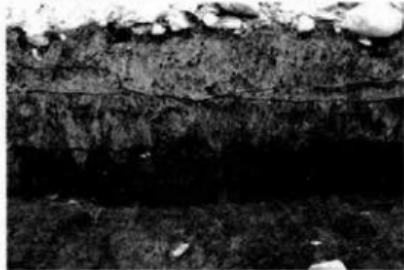
P31, P32, 4号溝など (南より)



遺構検出状況 (P19, P21, P22, 東より)



遺構検出状況 (P23, P24, P25, 南より)



W区断面 (東より)



作業風景 (北より)



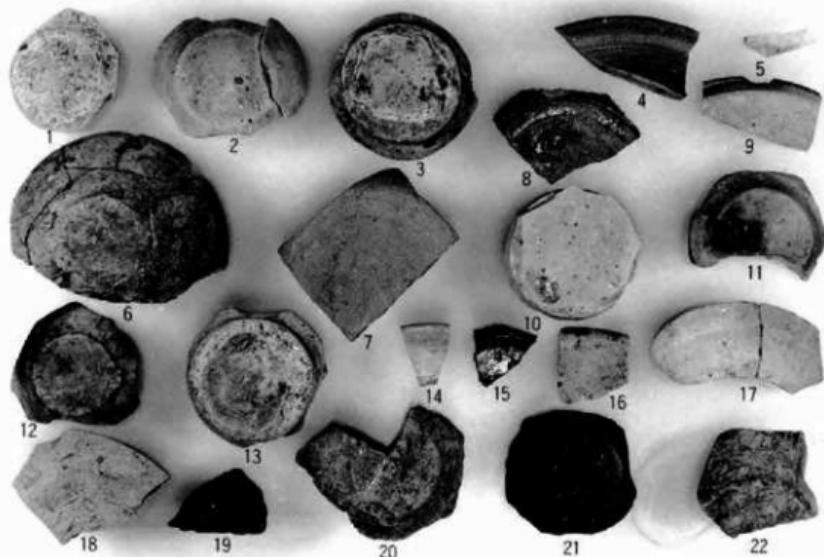
冠水状況 (北より)



第1区～第4区（南から）



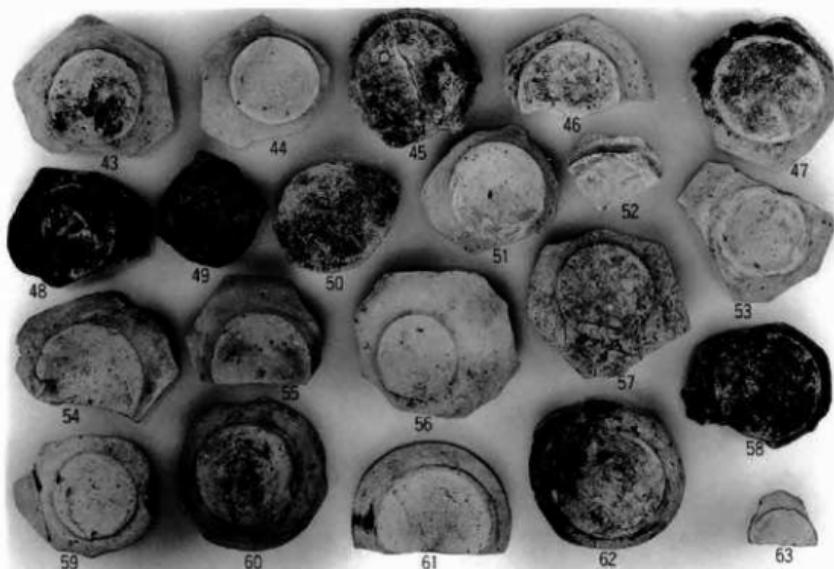
第6区～第8区（北から）



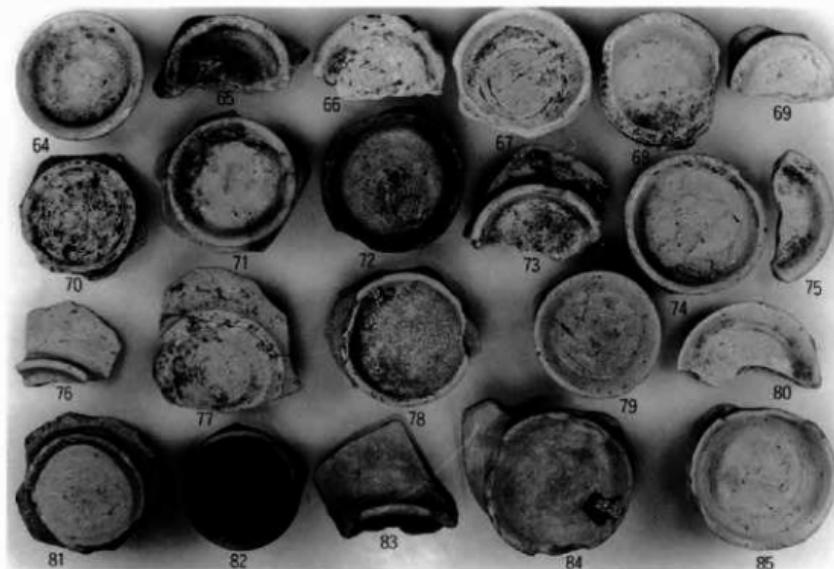
遺構出土の遺物



調査区出土の遺物



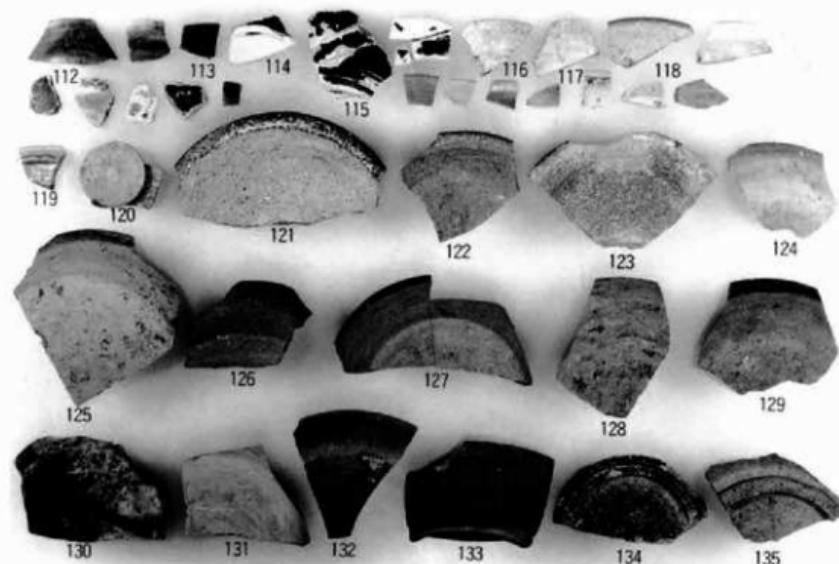
調査区出土の遺物



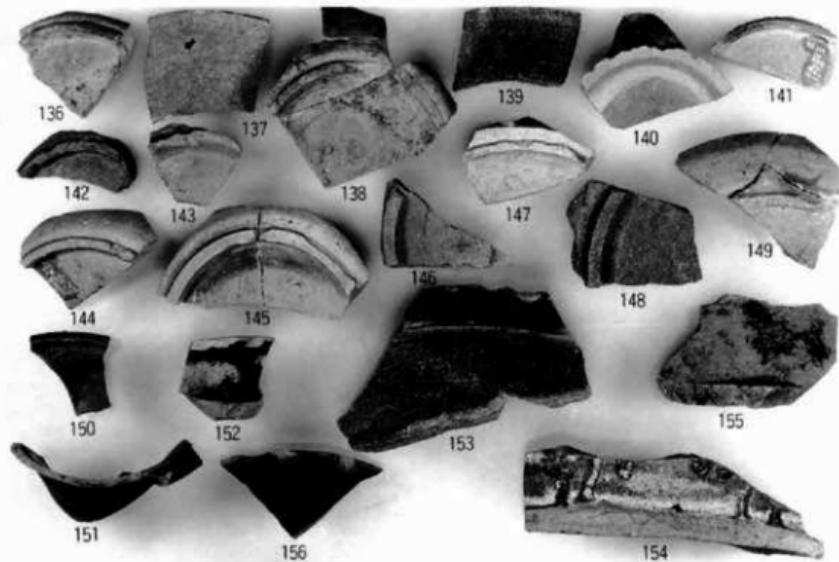
調査区出土の遺物



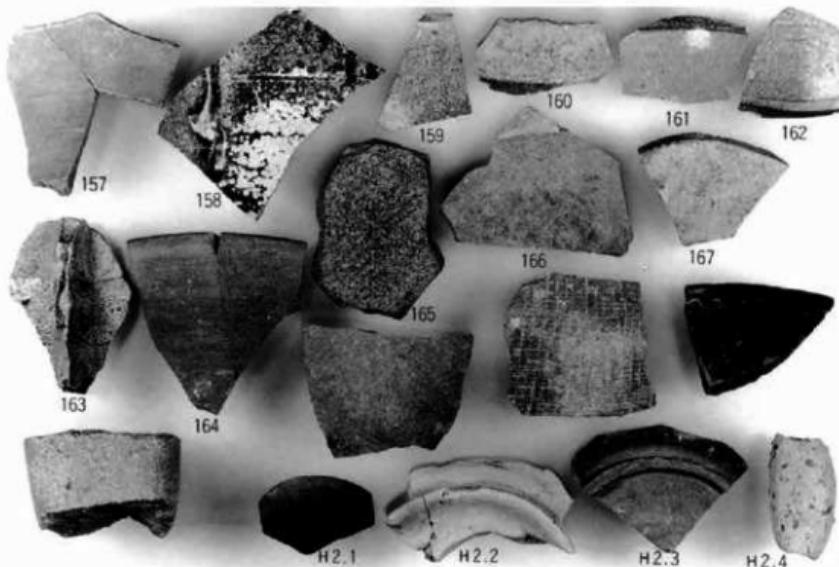
調査区出土の遺物



調査区出土の遺物



調査区出土の遺物（昭和63年度）



調査区出土の遺物（昭和63年度、平成2年度）



調査区出土の遺物（昭和63年度）



各区出土の土鉢、輪の羽口、鉈鋤、鐵製品など（昭和63年度）



調査区遠景(東から)

三浦遺跡

平成3年3月25日 印刷
平成3年3月31日 発行

編集・発行 石川県立埋蔵文化財センター

石川県金沢市米泉町4丁目133番地
〒921 電話(0762)43-7692(代)

印刷 北國書籍印刷株式会社
